

もめんポーとムジ

ホンのむかし

五月九日から十四日までを「もめんポー」といつていました。そしておわりの十四日の夜はホタモチをつくらつて祝つたもんだそうです。

川俣のあたりは氣候が暖かく土地が綿づくりにあつて、いたらしく、とても良い綿がたくさんとれました。その綿の束をつみとり、種をとり、糸くり機をつかつてひきながら、箸ぐらゐの長さのヨシの棒にからげてつむいでいきます。この作業を「もめんポー」と呼びました。より上がつた糸を染めて織つて布にし、着物やフトンをつくりました。めくら織が多く織られたといわれています。

「もめんポー」の作業は女達の夜なべでした。くらくなると宿になつた家に四、五人が集まつて、土間にムシロをしき一つの行燈を囲んで輪になり、手を動かしながらせわしく口も動かして世間話にはなをさかせ、とてもにぎやかでした。夜もふけてくると

「カタ、カタ、カタン」

裏の方で音がしました。誰も気づかない様子でせわしく手と口を動かしています。

「ガタ、ガタ、ガタン」

仲間の一人が手を休めずに

「ムジが来たんだんべえ。」

「ああ、ムジだんべえな。」

「あぶらでもなめに来たんだんべえ。」

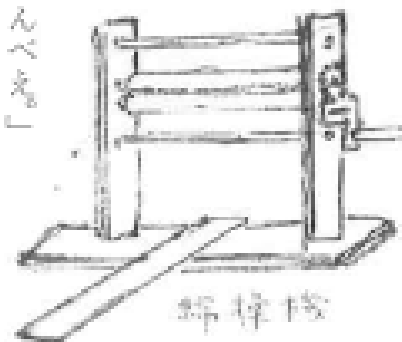
みんな、うなづきあつて、気にもとめずに手と口を動かしていました。

ムジとはムジナの事。人間と仲間の様に思われていたムジ君は、スーッと土間に入りこみ、みんなの様子を土間のすみにチョココンとすわつて眺めていました。行燈の油は大切なもの、なめられては大変です。台所にある残り物をあげては、おひきとり願つてました。

——なんとも はあ——

一体いつごろからムジナが悪者になつたのでしょうか？ きつと世の中がひらけ、人の心がすさみはじめ、心までせまくなつていったころからなのではないでしょうか。

めくら織……たて、横とも紺色の糸で織つた紺無地のもめん織物
ムジナ……たぬきのことともいわれるがあなぐまの異名である



綿棒機

